

## 長岡市の不燃・粗大ゴミの暫定置き場

調査日：平成 16 年 11 月 21 日（日）

班：上下水道・廃棄物班

分類別：被災状況、復旧・復興状況

キーワード別：上・下水道

### 調査結果

#### <写真の説明>

長岡地区衛生処理組合を訪問した際、長岡市から発生した不燃ゴミと粗大ゴミが歴史博物館向かいの敷地に留め置かれていることを聞き、見学した。留め置かれている理由は、10月1日より有料化が実施され、直前の9月に大量のゴミ、特に不燃ゴミと粗大ゴミが排出されて、組合ではこれを12月中に処理する予定でいたが、中越地震が起こり、地震で生ずる不燃ゴミ・粗大ゴミを施設で処理する余裕がなくなったため。留め置かれているゴミの量は11月19日までに2,800トンに及んだ(家電四品目を除く)。

敷地入り口左側には廃家電類(写真1)が、右側には布団類(写真2)が集積され、中央にはどちらにも属さないゴミ、実質的には不燃ゴミ(含プラスチック)と粗大ゴミの入り交じったものが山積みされていた(写真3)。入り交じったゴミの内容は実に雑多であり(写真4)、今後どのように処理・処分されていくか、環境影響の観点から注目していく必要がある。

#### <衛生組合でのゴミ処理>

なお長岡地区衛生処理組合は、長岡市・三島町・越路町の1市2町からなり、寿事業所と鳥越事業所があり、寿では焼却が(80トン/日×2基)、鳥越では焼却(75トン/日×2基)と不燃・粗大ゴミの分別・減容施設、それに処分場がある。これらとは別に長岡市は柿(地名)に埋立地を有していて、寿の焼却灰などを受け入れている。

地震時、寿の焼却炉の温水発生器の配管が折れた。また煙道が1m半低下したが、機能的に問題はなく11～12月に点検補修する。寿の運転再開は10月26日。鳥越はほとんど被害を受けず、2日間点検のため停止し、その後稼働させた。訪問時、1市2町の可燃ごみと三島・越路両町の不燃ゴミは受け入れていた。長岡の不燃ゴミを受け入れていないのは、量的に多いから。粗大ゴミは1市2町の何れからも受け入れていなかった。かくて冒頭に記した様に、長岡市で発生した不燃ゴミと粗大ゴミの仮置きが必要になった。

がれき・ブロック類は、地区ごとに電話で受け付け、柿に埋めている。解体家屋は、解体時に5分別し(所有者の負担)、仮置き場(スペースネオトピア当初予定地)で9～12分別され(収集と処分は長岡市の負担)、それぞれ民間処分場あるいは柿に搬入する予定。

柿の処分地は、管理用道路が5～6カ所陥没し、アクセス市道も被害を受け、仮復旧済みである。がれきは1期埋め立て地(安定型)に入れている。遮水シートは、ゴミが埋まっていないところにふくれが見られ、埋まっていないところには見られない。伝導度による漏出検査をする必要がある。



写真1



写真2



写真3



写真4